

お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園：東京都 昭和女子大学附属昭和高等学校（SGH）
2. 実践した教科等：特別活動
3. 基にした学校園：お茶の水女子大学附属高等学校
4. 基にした実践名：「持続可能な社会の探究Ⅰ 国際協力とジェンダー」
お茶の水女子大学附属高等学校（2017）『研究紀要』，pp.165-167より

5. 実践の概要

実施日時

2019年2月15日

概要・コメント

本校のグループ研究を通して「ジェンダーについての古くからある固定概念を払拭するためには幼児、児童に対してのジェンダーフリー教育が必要である」という仮定を検証するため、自分たちで作成した「ジェンダーカルタ」を用いて幼児教育におけるジェンダー教育の必要性を考えることを目的として、SGH 成果発表会国際フォーラムの1分科会として実践した。

対象とした生徒は、ジェンダーについて興味がある本校高校1年生、2年生。そして、SGH 成果発表会にご出席いただいた教育関係の方々にもご参加いただいた。

活動内容は生徒が作成したジェンダーカルタを用いて参加者の方に小学生の立場に立ってカルタを行い、その後ディスカッションを行うワークショップを実施した。生徒同士がグループワークをしながらジェンダーを学び、実際に小学生がカルタを行ったときの注意点などを話し合い、今後の活動にむけての改善点を検討した。